

しまなみ農業だより

農薬散布を すると いうこと



季節はすっかり夏らしくなり、いよいよ梅雨に入りますと病気や害虫が大発生するようになりますので、どうしても農薬散布をしなければなりません。私も過去4年間各所で防除のお話してきたわけですが、いろいろと誤解や勘違いがあるようです。以前から農業に携わっている方々は（どこの産地も同じなのですが）年々古くなる一方で、昔覚えたことがだんだん怪しくなってきたり、新しい薬剤になかなか対応できなかったりするようです。それに加えて上島町の場合、定年退職をきっかけに農業を始められる方も多く、巷で流布している俗説に惑わされたり、逆に散布スケジュールをとにかくこなせばよい、と勘違いされていたり、いろいろと農薬使用の上でのトラブルが見えます。今月は農薬使用の面で一般的に気をつけなければならぬこと、よくある勘違いをまとめてみます。

1 農薬散布は必要悪である

1999年の7月初めに山形へサクラランボを見に行きました。驚いたのが果樹園の真ん中で、はるかかなたの自動車の音以外何も音がしなかったこと。ムシの羽音も鳥のさえずりも聞こえませんでした。冬が寒かったためムシの発生が遅く、それをえさとする鳥もいなかったようです。当時、福島を越えると夜

間に果実の汁を吸う蛾類が発生しなかったそう
で、必要が無ければ防除もしなくてよいのです。
しかし残念ながら雨も降り年中暖かい西南暖地
に属する当地では、ムシも草も発生し放題なの
で防除が必要となります。

2 天然物質は安全で化学合成物質は有害という誤解

『〇〇は天然成分由来なので安心！』最近の
通販番組でよく耳にしますが、このせりふは全
く根拠がありません。毒蛇も毒茸も致命的です
が、これらの毒は天然物ではないのでしょうか？
ムシを全滅させるため強力な毒物を農薬とした
のは過去のことです。医薬も農薬もヒントは天
然化合物で、使い方によっては毒にも薬にもな
る天然物質を、●●には効くが人には害がない
よう構造を少し変えて製品とする、と言うステ
ップを最近では必ず踏みます。発売されている
薬剤には必ず使用上の注意があり、これを守っ
て使う限りにおいては安全であるとされています。

3 無農薬は味が良いという誤解

かつてニコチン系の殺虫剤があり、これを散
布したリンゴの葉っぱは一時的に緑が濃くなり、
いかにも樹体内のチツソ代謝に影響を与えてい
る風でした。こうした樹なら一時的に糖度が下
がったり、えぐみが増したかもしれません。で
は逆に無農薬なら必ず美味しくなるのでしょ
うか？ 実際やってみると良くわかるのですが、無
農薬で販売可能なきれいなものを収穫しようと
すると、広大な園地で山のように栽培してその
なかから良いものをより分ける（残りは売り物
にならないので捨てる）か、もしくは常に隅か
ら隅まで看回ってムシを一匹残らず手で退治す
るかのどちらかで、もし後者を行うならほんの
些細な変化も見逃さない管理を実践するという
ことになり、味の良いものができる可能性が高

まります。しかしながら実現可能なのはほんの
猫の額ほどの畑でしょう。野菜畑で夏場に殺虫
剤散布するメリットは、1週間なり10日間その
畑に行かなくてすむ（代わりに他の仕事ができ
る）、この1点にあります。

4 防除暦は万能ではない

防除暦とはまことに良く考えられたもので、
『〇〇の頃には●●のトラブルがよく発生する
のでその予防に△△を散布する』と書かれてい
るのですが、途中をはしょって『〇月には△△
を散布する』と読むのは残念ながら間違いです。
なぜなら病虫害はカレンダーどおりに発生する
わけではないからです。防除暦とはいえ暦はあ
くまで参考で、その時々々の気象や作物の生育ス
テージにあわせて調整すべきです。そのために
は病虫害の発生パターンを良く勉強し、トラブ
ル発生の予兆を見逃さないこと。常によく観察
していなければなりません。一般に病気は予防
を、ムシは発生初期をねらって防除するのが最
も効果的です。しかしこのタイミングをはずし
てしまったら、いくら定期防除どおり散布して
も被害をとめることは出来ません。ましてや先
月の定期防除と今月のと一緒に混ざって済ませて
しまい来月はお休
み、といった姿勢
は論外なのです。
また、防除薬は万
能ではなく、病虫
害の発生源を除く
といった日々の管
理を怠った園地で、
いくら高価な防除
薬を散布しても残
念ながら効果は期
待できません。

参考：希釈倍数と薬量

希釈倍数	水100リットル あたり	水180リットル (1石)あたり
600倍	166cc/g	300cc/g
1,000倍	100cc/g	180cc/g
1,500倍	66cc/g	120cc/g
2,000倍	50cc/g	90cc/g
3,000倍	33cc/g	60cc/g
4,000倍	25cc/g	45cc/g